共にしあわせ産みだす日本共産党
市議団ニュース
第２０２９号
２０２２年８月２１日
日本共産党根室市議団
根室市宝林町４－２０３
TEL ２３－６０２３
FAX ２４－１６８４

緊急議会開かれる

根室市議会は１２日、緊急議会を開催しました。主な内容をお知らせします。

今回の緊急議会の議案は、コロナ渦での物価高対策などへの、約２億５千万円の補正予算などです。

主な内容は、

○家事用の水道基本料金10～12月分の減免５７０３万円

○住民税非課税の高齢者世帯及び障がい者世帯を対象とした、高齢者世帯等給付金３８８９万円（１世帯当たり１万２千円）

○北海道の「子育て世帯生活支援特別給付金」の対象から外れる世帯を対象とした、子育て世帯への給付金２５００万円（児童１人当たり１万円）

○北海道の「事業者等事業継続支援金」の給付を受けた事業者に対して上乗せで支給する、事業者等事業継続緊急支援金６０００万円（法人個人問わず1事業者あたり5万円）などとなっています。

このほかに、訪問入浴サービス事業の体制整備として、３９０万４千円が予算措置されました。この内容について、日本共産党の橋本竜一議員が質疑を行いました。

橋本議員の質疑

今回の予算措置は、社会福祉協議会が行っていた訪問入浴サービスについて、担当されていた保健師が６月末で退職されたことにより、市が紹介した看護師で週３回に縮小してサービスを行っていましたが、新規利用を受け付けられないなど市民のニーズに応えられなくなっていたところ、孝仁会から派遣協力の申し入れがあり、そのための人件費等です。

橋本議員は、行政として迅速に対応したことを評価したうえで、本事業は長期に継続して行われなければならないことから、次年度以降の取り組みについてただしました。市民福祉部長は、今回はあくまでも臨時的措置、今後、早期に看護師等の確保に努めると答弁。橋本議員は、病院ですら看護師の確保が厳しい中、介護現場ではなおさら。事業所と市が協力して専門職の確保を行うよう求めるとともに、地域の医療技術者の人材不足は地方自治体の努力だけでは解決できず国に責任があると指摘。市長に、国に対してしっかりと要望するよう求めました。

紙智子「国会かけある記」

「知里幸恵　銀のしずく記念館」を訪れて

２０２２年８月15日
参議院議員　紙智子

北海道登別市の「知里幸恵　銀のしずく記念館」を訪れました。知里幸恵は明治生まれです（１９０３～22年）。言語学の第一人者である金田一京助氏の勧めでアイヌ民族の「カムイユカラ（神謡）」の文章化に取り組みました。

「銀の滴降るまわりに、金の滴降るまわりに、という歌を私は歌いながら流れに沿って下り、人間の村の上を通りながら下を眺めると、昔の貧乏人が今お金持ちになっていて、昔のお金持ちが今貧乏人になっているようです」。

これは「フクロウのカムイユカラ」の冒頭の部分です。語り継がれていた話をローマ字で表記し、日本語訳とあわせて「アイヌ神謡集」にしました。知里は心臓病のために19歳で生涯を閉じました。

私は以前、アイヌ語の話者でありアイヌ語教室の中本ムツ子先生が知里のアイヌ神謡集を歌いカムイユカラにふれたことを思い出しました。「銀の滴降るまわりに、金の滴降るまわりに」を「ｓｈｉｒｏｋａｎｉｐｅ　ｒａｎｒａｎ　ｐｉｓｈｋａｎ、ｋｏｎｋａｎｉｐｅ　ｒａｎｒａｎ　ｐｉｓｈｋａｎ」とリズムを刻みながら歌うユカラの響きはとても心地よいものでした。

知里は「アイヌに生まれ、アイヌ語の中に生い立った私は、先祖が残し伝えた多くの美しい言葉を消滅させるのは名残惜しい。いろいろな物語を、多くの人に読んでいただければ無限の喜び、無上の幸福に存じます」と語っています。その思いに少しでもふれた思いです。